

## 5. 医学部

I	医学部の教育目的と特徴	5-2
II	分析項目ごとの水準の判断	5-4
	分析項目 I 教育の実施体制	5-4
	分析項目 II 教育内容	5-8
	分析項目 III 教育方法	5-13
	分析項目 IV 学業の成果	5-19
	分析項目 V 進路・就職の状況	5-25
III	質の向上度の判断	5-28

## I 医学部の教育目的と特徴

医学部では一般的に医療人に求められる教育目的を設定している他、島根大学に掲げられた憲章及び現代社会，特に地域社会からの要請を踏まえて，当学部独自の教育及び入学者選抜システムの特徴を打ち出している。

### 1. 【教育目的】

- A 医学科では豊かな心を持ち信頼される医療人になるべく，医の心と十分な知識・技術を学んだ医学士の養成を目指して，以下の目的を掲げている。
- (1) 社会人としての豊かな教養と高い倫理観を培う。
  - (2) 生命の尊厳及び患者の権利と人格尊重の重要性を理解させる。
  - (3) 信頼される善良な医療人としての総合的判断能力を育成する。
  - (4) 各科目における教育の到達目標を明示し，自学自習を促し，より高い問題解決能力を育成する。
  - (5) 医師としての基本的な知識と技倆を身に付け，生涯にわたって知的向上を目指す能力を培う。
  - (6) 患者中心のチーム医療の本質を理解させ，その実行に必要なコミュニケーション能力を育成する。
  - (7) 科学と情報技術の進歩に対応し，それを応用する能力を培う。
  - (8) 将来の医療・教育の現場で指導しうる能力を培う。  
国際的に活躍できる能力を養う。
- B 看護学科では，看護の対象となる人間への理解を深め，一人ひとりのニーズを把握し，適切に援助していくことのできる看護師・保健師の養成を目指し，以下の目的を掲げている。
- (1) 社会人として豊かな教養と看護職としての高い倫理観を培う。
  - (2) 看護の対象者を深く理解し，対象者自身がより質の高い生活を送ることができるよう支援する能力を育成する。
  - (3) 潜在的・顕在的健康問題を理解し，主体的かつ総合的に解決する能力を育成する。
  - (4) 看護の実践に求められるコミュニケーション能力を培う。
  - (5) 専門的知識と技術を身に付け，生涯にわたって知的向上を目指す能力を育成する。
  - (6) 少子・高齢社会に対応した地域看護活動が展開できる能力を育成する。
  - (7) 保健・医療・福祉等，関連領域への理解を深め，各分野の専門職者と協調できる能力を育成する。
  - (8) 広く国際的視野に立ち，最新の科学と情報技術を活用する能力を養う。

### 2. 【特徴（入学者選抜方法を含む）】

- (1) 地域医療人養成のための教育システムの充実
- (2) 地域医療に携わる人材の獲得を目指した入学者選抜法の設定
- (3) 早期体験実習の充実
- (4) 腫瘍生物学教育の充実
- (5) 米国型家庭医学教育の体験

### 3. 【想定する関係者とその期待】

学部学生は、医療人に求められる能力の獲得に加え、地域における医療現場の実態を理解した医療活動ができる能力の獲得を期待している。

地域の医療関係者及び地域住民からは、地域医療の現状、重要性を認識した医療人の育成が期待されている。また、これらの医療人の地域への定着も期待されている。

全国的にも地域医療に従事する医療人の育成が求められていると同時に、地域医療の充実により、たとえば社会ニーズの高いがん治療等に関する臨床・看護研究により多くの労力が投入されることができ、医学全般の発展に寄与することも期待されている。

## II 分析項目ごとの水準の判断

### 分析項目 I 教育の実施体制

#### (1) 観点ごとの分析

**観点 基本的組織の編成**

(観点に係る状況)

医学部は医学科及び看護学科の2つの学科からなる(資料 1-1-1 別添)。医学部の充足率はほぼ100%で推移している(資料 1-1-2)。

#### 資料 1-1-2 医学部の学生定員と入学者数

学科	年度	募集区分		募集人員	入学者数			
		前期	後期		男	女	計	
医学科	19	一般	前期	55	26	30	56	
		推薦		20	9	10	19	
		推薦(地域枠)		10	5	5	10	
		学士入学(3年次編入学)		10	8	4	12	
		合計						
		合計						
	18	一般	前期	55	30	25	55	
		後期	5	5	0	5		
		合計	60	35	25	60		
		推薦		20	13	7	20	
		推薦(地域枠)		5	3	3	6	
		学士入学(3年次編入学)		10	8	2	10	
17	一般	前期	55	27	28	55		
	後期	10	7	3	10			
	合計	65	34	31	65			
	推薦		20	11	9	20		
	学士入学(3年次編入学)		10	5	5	10		
	合計							
16	一般	前期	55	35	20	55		
	後期	10	7	3	10			
	合計	65	42	23	65			
	推薦		20	10	10	20		
	学士入学(3年次編入学)		10	5	5	10		
	合計							
15	一般	前期	55	25	30	55		
	後期	10	7	3	10			
	合計	65	32	33	65			
	推薦		20	13	7	20		
	学士入学(3年次編入学)		10	7	3	10		
	合計							
14	一般	前期	55	27	28	55		
	後期	10	5	5	10			
	合計	65	32	33	65			
	推薦		20	10	10	20		
	学士入学(3年次編入学)		10	7	3	10		
	合計							

学科	年度	募集区分		募集人員	入学者数		
		前期	後期		男	女	計
看護学科	19	一般	前期	37	3	3	63
		後期	10	0	1	21	
		合計	47	3	4	85	
		専門高校・総合学科卒業生選抜	3名以内	0	2	2	
		推薦	10	0	1	01	
		社会人特別	若干名	0	0	0	
	18	一般	前期	37	4	3	43
		後期	10	1	1	11	
		合計	47	5	4	55	
		専門高校・総合学科卒業生選抜	3名以内	0	2	2	
		推薦	10	0	1	01	
		社会人特別	若干名	0	0	0	
17	一般	前期	37	0	3	83	
	後期	10	1	9	11		
	合計	47	1	4	74		
	専門高校・総合学科卒業生選抜	3名以内	0	1	1		
	推薦	10	0	1	01		
	社会人特別	若干名	1	0	1		
16	一般	前期	37	3	3	43	
	後期	10	2	8	11		
	合計	47	5	4	24		
	専門高校・総合学科卒業生選抜	3名以内	0	2	2		
	推薦	10	0	1	01		
	社会人特別	若干名	0	1	1		
15	一般	前期	37	1	3	63	
	後期	10	0	1	01		
	合計	47	1	4	64		
	専門高校・総合学科卒業生選抜	3名以内	0	1	1		
	推薦	10	0	1	01		
	社会人特別	若干名	0	2	2		
14	一般	前期	37	0	3	73	
	後期	20	2	1	82		
	合計	57	2	5	55		
	専門高校・総合学科卒業生選抜	3名以内	0	0	0		
	推薦	10	0	1	23		
	社会人特別	若干名	1	2	3		

医学科の講座は、基礎医学系、臨床基礎医学系、社会医学系、臨床医学系の4つの系列に分類し、関連講座を統合した大講座制としている。看護学科は、基礎看護学講座、臨床看護学講座、地域看護学講座の3大講座から構成されている。医学科では、平成19年度に地域医療教育学講座を開設し、地域医療病院実習の企画・管理・運営の充実を図る

とともに、特に地域枠推薦入学学生に対しての地域医療教育の強化を図った。平成 18 年度には微生物・免疫学講座の免疫学サブユニットに教授ポストを新たに設けることにより、腫瘍生物学の学習に必須な免疫学教育の強化を図り、平成 19 年度にはがん化学療法教育学講座とがん放射線治療教育学講座を開講し、腫瘍治療の教育の充実を図っている。

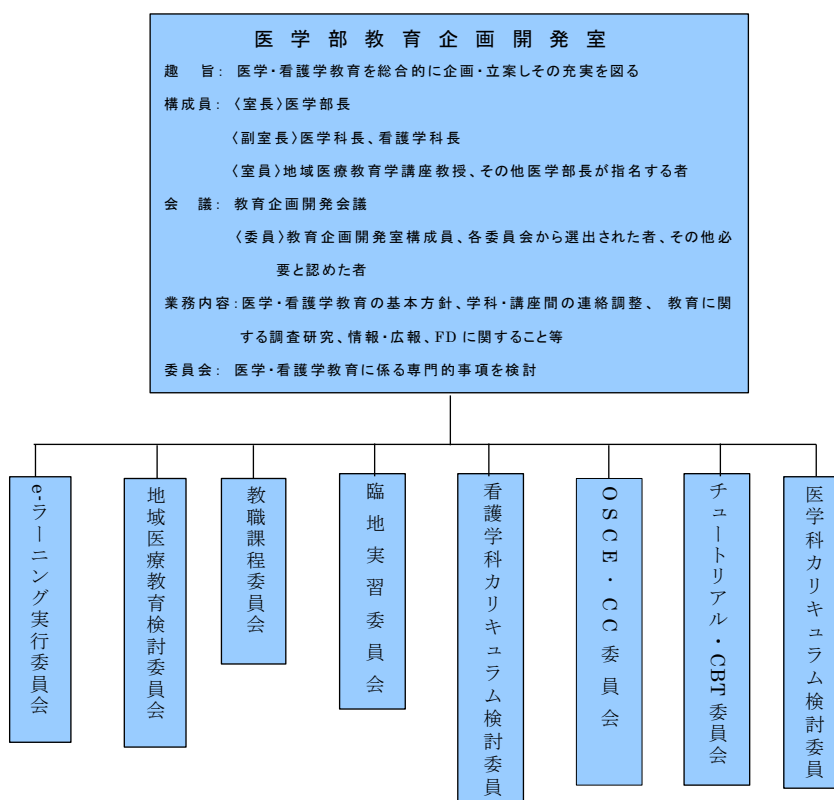
**観点 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制**

(観点に係る状況)

平成 15 年度に医学・看護学教育の向上に資するための方策を総合的に企画・立案し、その充実を図ることを目的とした教育開発企画室を設置し、室員を配置するとともに、以下の下部委員会を設け、それぞれの専任事項について検討している(資料 1-2-1)。加えて、ファカルティ・デベロプメント (FD) を実施し、教育内容や方法の改善を行っている(資料 1-2-2)。

資料1-2-1 教育開発企画室の構成

**医学部教育企画開発室及び委員会**



- ① チュートリアル・CBT委員会  
CBTの試行と本格実施等
- ② OSCE・CC委員会  
CC-Webを開発・改良等
- ③ 医学科カリキュラム検討委員会  
医学英語、腫瘍生物学の開講、腫瘍学の集中講義や漢方教育の開始等
- ④ 地域医療教育検討委員会地域医療病院実習の開始等

- ⑤ 看護学科カリキュラム検討委員会  
保健師助産師看護師学校養成所指定規則改定（平成 21 年度から実施）に対応したカリキュラムの検討等
- ⑥ 臨地実習委員会  
倫理的行動の指針の策定，看護学実習 Web を開発・改良，養護教諭養成課程の課題の検討，日本養護教諭養成協議会への加盟，出雲市教育委員会での教育実習の開始，養護教諭志望の学生に対する指導等
- ⑦ e-ラーニング実行委員会（H19. 7 設置）  
平成 18 年度の現代 GP に対応した実施体制の強化，看護・医療系全国交流会の開催等

## 資料1-2-2 平成16-18年度FDの開催実績

名 称	開催月日	講演テーマ	講 師	参加数
第3回「教育職員に対する研修会」	16. 10. 26(火)	「OSCE及びクリニカルクラークシップについて」ほか	OSCE・CC委員会 小林教授ほか	49
平成16年度「医学・看護学教育ワークショップ」	16. 10. 30(土)	「医学部における教養教育のあり方について」「臨床実践能力の育成について」	ベネッセコーポレーション 飯塚 信、東海大学医学部 吉井文均、金沢大学医学部 稲垣美智子ほか	101
第4回「教育職員に対する研修会」	17. 12. 5(月)	「モデル・コア・カリキュラムと臨床実習開始前までのカリキュラムについて」ほか	チュートリアル・CBT委員会 森田教授ほか	29
平成17年度「医学・看護学教育ワークショップ」	17. 12. 17(土)	島根大学医学部のめざす地域医療教育	長崎大学離島・へき地医療学講座 前田隆浩、岐阜県立看護大学 大川真智子ほか	115
平成18年度「医学・看護学教育ワークショップ」－第1回「島根大学医学部地域医療教育FD」	18. 7. 20(木)	「大学－地域連携・効果的な地域医療教育の実践に向けて」	教育企画開発室 熊倉助教ほか	144
平成18年度「医学・看護学教育ワークショップ」－第1回「e-ラーニング研修会」	18. 11. 23(木)	看護実践能力育成におけるe-ラーニングの活用と効果	大阪府立大学看護学部・看護学研究科 助教授 真嶋由貴恵	27
第5回「教育職員に対する研修会」	18. 11. 28(火)	「医学科カリキュラム改革の概要について」	医学科カリキュラム検討委員会 紫藤教授ほか	31
平成18年度「医学・看護学教育ワークショップ」－第2回「島根大学医学部地域医療教育FD」	18. 12. 2(土)	米国WWAMIプログラム視察報告会	小林病院長、地域看護学講座 中谷教授ほか	59
平成18年度「医学・看護学教育ワークショップ」－第2回「e-ラーニング研修会」	18. 12. 2(土)	WBTによる医療系統合教育－九州大学医療系部局におけるe-ラーニング導入の試み	九州大学医療系統合教育研究センター 教授 吉田素文	54
平成18年度「医学・看護学教育ワークショップ」－第3回「e-ラーニング研修会」	18. 12. 13(水)	今後のe-ラーニングの進め方－コンテンツ作成など	地域看護学講座 中谷教授ほか	28
平成18年度「医学・看護学教育ワークショップ」－第4回「e-ラーニング研修会」	18. 12. 27(水)	e-ラーニングコンテンツの理念－3年後を目標とした看護教育編	医療情報部 花田助教ほか	23
平成18年度「医学・看護学教育ワークショップ」－第3回「島根大学医学部地域医療教育FD」(1日目)	19. 3. 16(金)	地域医療病院と大学の間の効果的な医学教育連携システムの構築	コロラド大学講師ほか	104
平成18年度「医学・看護学教育ワークショップ」－第3回「島根大学医学部地域医療教育FD」(2日目)	19. 3. 17(土)	地域医療病院と大学の間の効果的な医学教育連携システムの構築	コロラド大学講師ほか	76

その他，教育企画開発室ではFDを開催し，「教育職員に対する研修会」では新任教員に対して本学の教育システムの説明や医学チュートリアル教育方法等の指導を行い，教員の教育能力の向上を図っている。また，「医学・看護学教育ワークショップ」では，地域医療教育等に関するFDを実施し（資料1-2-2），地域に根ざした医療人の育成における教育方法の重要性について各教員の認識を高めている。

## (2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) 平成14年度から開始した抜本的な教育内容の見直しに伴い，新たな体制を整えてきたが，この4年間においては各委員会，各講座が有機的に機能し多くの教育改善がなされている。その中でも，腫瘍関連の包括的な教育体制の確立や地域医療教育の開始，全国に先駆けての地域医療病院実習の導入（資料1-2-3），医学チュートリアル教育の充実と改善等は高く評価できる。特に，地域医療病院実習においては学生からの評価も高く，実習が「楽しい」，「有意義である」とした学生がそれぞれ80%を越え，地域医療の重要性を認識した学生は96%であった（資料1-2-4，1-2-5）。また，実習指導医

の評価も高く、「医学生に地域医療の必要性を学んでもらうことができましたか？」の問に対し、90%近い指導医が肯定的な回答しており(資料1-2-6)、地域医療病院実習は地域医療への関心並びに理解を深めるのに極めて有効であったと判断した。

資料 1-2-3 地域医療病院実習の予定表の抜粋

改革2期生(実習54週と特別プログラム3週)

資料

学年	学期	5年次臨床実習														6年次臨床実習													
		消化器内科	消化器外科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科						
10	1	消化器内科	消化器外科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科						
10	2	消化器内科	消化器外科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科						
11	1	消化器内科	消化器外科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科						
11	2	消化器内科	消化器外科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科						
12	1	消化器内科	消化器外科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科						
12	2	消化器内科	消化器外科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科						
13	1	消化器内科	消化器外科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科						
13	2	消化器内科	消化器外科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科						
14	1	消化器内科	消化器外科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科						
14	2	消化器内科	消化器外科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科						
15	1	消化器内科	消化器外科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科						
15	2	消化器内科	消化器外科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科	泌尿器内科	泌尿器外科	産婦人科	小児科	皮膚科						

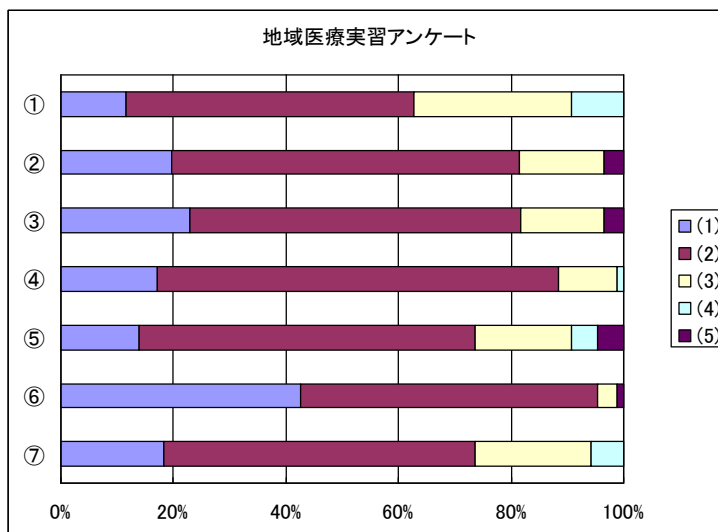
- 1) 必修科12科(内科8、外科2、小児、産婦)は6名を2週間ずつお願いする。(但し、消化器外科Aは3週間とする)
- 2) 必修科での実習を6年生に再度希望する場合は、2科4週間(消化器外科を選択した場合は5週間まで)に限定し、6年生の5/28-9/7は1科に6年生1-2名をググラのリーダーとして、5年生6名と一緒に実習する。但し、4/9-5/25、7/23-7/27は6年生のみとする。  
**6年生の産婦の実習は、平成20年度以降1週間ずつとし6年生と一緒に行う。**
- 3) 選択科12科(皮膚、整形外科、泌尿器、精神、耳鼻、眼、放射線、麻酔、検、歯、救、消化器外科B)は、まず必修ローテーションを1グループ6名で2週間ずつ実習を行い、その後、学生からの希望に基づき、2度目の選択実習を6年生で行う(6名/科程度)。  
**5年生の臨床検査医学の実習は、平成20年度以降4日とし、地域医療教育等の地域実習を1日行う。**
- 4) 県立中央病院には3週間ずつ、ローテーションをお願いする。
- 5) 地域医療病院の実習は、僻地を含む地域医療病院での実習とし、6年生になつてから、3週間ずつ4回にわけて実習に行く。平成20年度は3週間ずつ6回において実習を行う。
- 6) マッチングのために、病院見学(研修医採用に係る試験及び面接を含む)に行くことを希望する場合には、6年生の選択実習の期間に限り、3カ所合計6日までとする。

資料1-2-4 地域医療実習に対する学生用アンケートの抜粋

**地域医療実習を終えてのアンケート(学生用)**

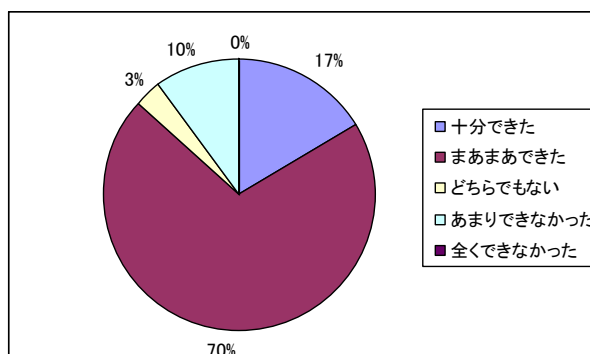
- ① 実習を始める前に、この実習に対して不安がありましたか？  
 (1) 不安なし (2) 少し不安だった (3) かなり不安だった (4) 非常に不安だった
- ② 実習を終えて、この実習が楽しかったと感じましたか？  
 (1) 非常に楽しかった (2) 楽しかった (3) どちらでもない  
 (4) つまらなかった (5) 非常につまらなかった
- ③ 実習を終えて、この実習が有意義であったと感じましたか？  
 (1) 非常に有意義であった (2) 有意義であった (3) どちらでもない  
 (4) 無駄であった (5) 非常に無駄であった
- ④ 担当医からの指導は十分でしたか？(実習期間を通して指導医が複数いた場合は総合的に評価して下さい)  
 (1) 極めて良かった (2) 良かった (3) どちらでもない (4) 悪かった  
 (5) 極めて悪かった
- ⑤ 今後の進路を選ぶ上で、この実習は参考になりましたか？  
 (1) 極めて参考になった (2) まあまあ参考になった (3) どちらでもない  
 (4) あまり参考にならなかった (5) 全く参考にならなかった
- ⑥ この実習を通して地域医療の必要性を理解できましたか？  
 (1) 十分理解できた (2) まあまあ理解できた (3) どちらでもない  
 (4) あまり理解できなかった (5) 全く理解できなかった
- ⑦ 将来、地域医療に携わりたいですか？  
 (1) 是非携わりたい (2) 機会があれば携わりたい (3) どちらでもない  
 (4) あまり携わりたいくない (5) 絶対に携わりたいくない
- ⑧ 今後もこの実習を続けていくべきだと思いますか？  
 (1) 続けるべきだ (2) どちらでもない (3) やめるべきだ

資料1-2-5 地域医療実習に対する学生アンケートの結果



資料1-2-6 地域医療実習に対する指導医用アンケート結果の抜粋

②医学生に地域医療の必要性を学んでもらうことができましたか？



分析項目 II 教育内容

(1) 観点ごとの分析

観点 教育課程の編成

(観点に係る状況)

医学科の教育課程は、教養教育科目、専門基礎科目及び専門教育科目で構成し、教養教育科目は、基礎教育科目、共通教養科目及び専門基礎教育科目に分類、専門教育科目は、基礎医学系、臨床基礎医学系、社会医学系、臨床医学系及び特別系に分類している。また、教養科目の物理化学Ⅱの必修化等、教養教育の充実に加え、早期地域医療体験実習の単位化、6年一貫医学英語教育の導入、外来エスコート実習の導入、地域医療体験実習の単位化等により、低学年次から医学研究や医療現場に触れる機会を設けるとともに、附属病院、関連教育病院、並びに地域医療病院等での実地教育の期間を十分に確保し、地域に根差す医師の養成を目指している(資料1-2-3, 2-1-1別添)。

看護学科の教育課程は、教養教育科目、専門基礎科目、及び専門教育科目の3分野で構成しており、各分野の授業科目が関連性を持ちながら系統的に学習できるように配置して、一貫した4年間の教育を行っている。また、看護学科では平成16年度から養護教諭養成



課程（選択）を組み入れたカリキュラムをスタートさせ、キャリアの選択肢を拡げている（資料 2-1-3 別添）。

これらの改革によりカリキュラムはかなり複雑となっているが、学年ごとに適切に作成されたシラバスにより、授業等は円滑に行われている（資料 2-1-5 別添、2-1-6 別添）。なお、医学部においては科目の殆どが必須のため、履修モデルを提示する状況にない。

**観点 学生や社会からの要請への対応**

（観点に係る状況）

近年、社会的に強く要求される地域医療に携わる医師・看護師・保健師養成に向けて、学部における地域医療教育体制、システムの整備を早急に行った。これに関連し、医学科では、入学者選抜試験において島根方式といわれる地域枠推薦入学を平成 17 年度より開始し、学士入学学生においても地域枠を設定した。同様に社会的に養成の高い腫瘍専門医の育成に向け、学部教育の充実を図った。さらに、平成 17 年度地域医療等、社会的ニーズに対応した医療人育成支援プログラムで選定された「夢と使命感を持った地域医療人の育成プログラム」においては、島根県におけるへき地医療を担う地域医療人育成を目指し、この中で一部の学部学生に実践的地域医療研修の実績を持つ米国 WWAMI プログラムの見学体験研修をさせ、地域医療及び家庭医の担う役割を体得させている（資料 2-2-1）。

資料 2-2-1 日本版 WWAMI プログラムの検討の概要



低学年時に専門教育に触れたいという学生の要請に対応し、1年次の早期体験実習を単位化するとともに、2年次に外来エスコート実習を新たに導入した（資料 3-1-3）。

看護学科においては、個々の専門科目で学んだ知識や技術を統合し、学習を更に充実・発展させるため臨床看護学総合実習Ⅰ、臨床看護学総合実習Ⅱを開講し、主体的に課題解決に取り組む態度や能力の育成を目指している。また、平成16年度より山陰地域で初めて選択制で教職課程（養護教諭1種免許状取得）を開講した（資料2-2-2）。

資料2-2-2 看護学科教職課程の修得方法（抜粋）

3. 養護に関する科目の単位の修得方法

免許の種類	免許法施行規則に定める科目区分		医学部における授業科目	
	科目	最低修得単位数	授業科目	単位数
養護教諭	衛生学及び公衆衛生学 (予防医学を含む。)	4単位	○疫学・衛生統計 ○環境保健学 ○保健福祉行政論	2 2 2
	学校保健	2単位	○地域看護学Ⅱ	2
	養護概説	2単位	※養護概説	2
	健康相談活動の理論及び方法	2単位	○健康教育論Ⅰ ○健康教育論Ⅱ	1 1
	栄養学(食品学を含む。)	2単位	※栄養と代謝	2
	解剖学及び生理学	2単位	○形態と機能Ⅰ ○形態と機能Ⅱ	2 2
	「微生物学、免疫学、薬理概論」	2単位	○感染と免疫 ○薬理と薬剤	2 2
	精神保健	2単位	○精神看護学Ⅰ	2
	看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)	10単位	○看護学概論	2
			○看護理論Ⅰ	2
			○看護過程論	1
			○看護教育論	2
			○看護情報学総論	2
			○看護方法論演習Ⅰ	1
○看護方法論演習Ⅱ			2	
○看護方法論演習Ⅲ			2	
○成人看護学Ⅰ			2	
○成人看護学Ⅱ			2	
○成人看護学Ⅲ			2	
○母性看護学Ⅰ			2	
○母性看護学Ⅱ			2	
○小児看護学Ⅰ			2	
○小児看護学Ⅱ			2	
○精神看護学Ⅱ			2	
※クリティカルケア論			2	
○地域看護学Ⅰ			2	
○地域看護学Ⅲ			2	
○地域看護学Ⅳ			2	
○家族看護論	2			
○基礎看護学実習Ⅰ	1			
○基礎看護学実習Ⅱ	2			
○成人看護学実習Ⅰ	3			
○成人看護学実習Ⅱ	3			
○母性看護学実習	2			
○小児看護学実習	2			
○精神看護学実習	2			
○地域看護学実習Ⅰ	3			
合計	28単位			

備考 ○を付した授業科目は、卒業要件上の必修科目を表す。  
※を付した授業科目は、養護教諭1種免許状取得のための必修科目を表す。

4. 教職に関する科目の単位の修得方法

教職に関する科目	最低修得単位数	医学部における授業科目	
		授業科目	必修単
教職の意義等に関する	2	教職概論C	2
教育の基礎理論に関する	4	教育原論Ⅱ	2
		人格発達心理学	2
		教育社会学概説	2
教育課程及び指導法に関する	4	教育課程論	2
		道徳及び特別活動	2
		視覚教育論	2
生徒指導、教育相談に関する科目	4	進路指導論	2
		カウンセリング論	2
総合演習	2	養護総合演習	2
教育実習	5	養護実習事前・事後	1
		養護実習	4
合計単位数			25

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) 附属病院、関連教育病院、並びに地域医療病院等での実地教育の期間を十分に確保することにより、医学教育本来の目的である医療現場との結びつきを密にするとともに、生命の尊厳と患者の権利、及び人格尊重の重要性を理解し、医療と医の心を患者から学ぶ姿勢を身につけるよう教育を行った。

地域医療に携わる医師養成に向けての学部における教育体制とシステムの整備に加え、島根方式といわれる一般学生を対象とした地域枠推薦入学を導入するとともに（資料2-2-3）、学士入学者に対しても地域枠を設定し（資料2-2-4）、教育の充実ばかりでなく人材の確保も目指した。また、一部の学生ではあるが海外への派遣により日本にない地域医療を体験させている。これら取り組みは全国的にも注目されており、期待される水準を上回ると判断した。

## 資料2-2-3 地域枠推薦入学学生募集要項の抜粋

学生募集要項【特別選抜（地域枠推薦入学）】	
<b>1 趣旨・目的</b>	<p>島根県には僻地に該当する地域が多く、僻地における医師不足が深刻化しています。地域貢献を大学の理念とし、地域医療に重点を置く医学部は、医師派遣による僻地医療支援だけでなく、故郷に根付いて僻地医療を担う医師を養成することを使命としています。</p> <p>この「地域枠推薦入学」は、島根県内の僻地出身者で、医師として活躍するに十分な資質と明確な目的意識を持ち、島根県の僻地医療に貢献したいという強い使命感を持った意欲ある学生を発掘し、選抜することを目的としています。それゆえ、この「地域枠推薦入学」では、従来の推薦入学とは異なり、地域医療に貢献したいという強い意志を確認するため、志願者が出願前に僻地医療機関等で適性評価を受けるとともに出身地の市町村長等による面接を受けることとしています。</p>
<b>2 募集人員</b>	10人以内
<b>3 出願要件</b>	<p>次の各号に該当し、志願者の出身地に最も関連の深い市町村長の意見を参考に学校長が責任を持って推薦できる者</p> <p>(1) 生まれ育った地域が島根県内の僻地等（P.7「17 地域枠該当市町村」に掲げる市町村）に該当し、将来、その僻地における医療に貢献する強い意志のある者（小中学校時代を当該僻地で生活した者も含む。）</p> <p>(2) 高等学校（中等教育学校を含む。以下同じ。）を平成20年3月卒業見込みの者及び平成19年3月卒業した者</p> <p>(3) 僻地の医療機関及び社会福祉施設で適性評価を受け、市町村長等による面接を受けた者</p> <p>(4) 平成20年度大学入学者選抜大学入試センター試験（以下「大学入試センター試験」という。）のうち本学が指定した5教科・7科目を受験する者（前年度の大学入試センター試験成績は利用しません。）ただし、指定された教科・科目を受験していない場合は、無資格として取り扱います。</p> <p>(5) 高等学校における学習成績が優秀で、かつ、調査書の全体の評定平均値が3.9以上である者</p> <p>(6) 高等学校において数学Ⅲ、数学A及び数学Bを、物理Ⅱ、化学Ⅱ及び生物Ⅱのうちから2科目以上並びに英語Ⅱ、リーディング及びライティングを履修（見込みを含む。）した者</p> <p>(7) 人物が優秀な者</p> <p>(8) 合格した場合は、入学することを確約できる者</p> <p>(注) (2)には、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設を平成20年3月修了見込みの者及び平成18年4月以降に修了した者を含む</p>

## 資料2-2-4 学士入学地域枠の学生募集要項の抜粋

学生募集要項【学士入学（3年次編入学）】				
<b>1 趣 旨</b>	<p>最近の医学の急速な進歩は、医療の専門化と高度化を導き、優れた知識と技術を持った医師が求められています。また、医師には広い教養と豊かな人間性、高い倫理性が要求されます。このような情勢に対応して、医学以外の分野を専攻し学士の学位を取得した者で、専門分野で学んだ知識を医学に生かすことのできる優秀な人材に対し、医学修得の道を開き、医学教育、研究及び診療の将来を担う人材の育成を図ります。</p> <p>また、島根県内の高等学校を卒業して大学に進学した学生のうち、将来、僻地医療を含む島根県下の医療機関で地域医療を担おうとする熱意と使命感を持った学生を対象に、地域枠を設けて入学させ、地域医療を担う医師の育成を図ります。</p>			
<b>2 募集人員</b>	<table border="0"> <tr> <td>医学部医学科</td> <td>10人</td> <td>*地域枠として3人以内は島根県内の高等学校又は高等専門学校卒業生（高等学校等在学中に島根県内に在住していた者を含む。）とし、それ以外は島根県を含めた全国の高等学校卒業生とします。</td> </tr> </table>	医学部医学科	10人	*地域枠として3人以内は島根県内の高等学校又は高等専門学校卒業生（高等学校等在学中に島根県内に在住していた者を含む。）とし、それ以外は島根県を含めた全国の高等学校卒業生とします。
医学部医学科	10人	*地域枠として3人以内は島根県内の高等学校又は高等専門学校卒業生（高等学校等在学中に島根県内に在住していた者を含む。）とし、それ以外は島根県を含めた全国の高等学校卒業生とします。		

腫瘍医学教育においては大学院博士課程に高度臨床医養成コースと腫瘍専門医養成コースを設立し、専門医の育成に向けた学部と大学院での一貫した教育システムの構築しつつあり、高く評価した。

医療関係者に必須である医学英語教育についても、期待される機会が与えられ、その効果が得られつつあると評価した。例えば、一年次学生に対する医学英語においては「興味を持って学習を開始したか」の問いに対し、82%が「はい」と回答し、「有意義である」と回答した学生も80%を越えている（資料2-2-5）。

## 資料2-2-5 医学科医学英語に対するアンケート調査項目と結果の抜粋

## 18年度 医学英語：前期アンケート〔学生〕

医学英語前期について、アンケートに教えてください。各項目のcの欄、また最後の自由記入欄に積極的に感想・意見などを記入してください。改善の参考にしたいと思います。

1. 前期の医学英語を、興味を持って始めましたか。
 

a. はい <b>82%</b>	b. いいえ <b>13%</b>	c. その他 <b>5%</b>
------------------	-------------------	------------------
2. 担当の講座・教員名について。
 

a. 覚えている <b>85%</b>	b. 忘れた <b>11%</b>	c. その他 <b>4%</b>
---------------------	-------------------	------------------
3. 初回到単位認定の仕方について説明をうけましたか。
 

a. うけた <b>53%</b>	b. うけていない <b>40%</b>	c. その他 <b>7%</b>
-------------------	----------------------	------------------
4. 使用した教材は適切と思われましたか。
 

a. 適切 <b>84%</b>	b. 不適 <b>5%</b>	c. その他 <b>11%</b>
------------------	-----------------	-------------------
5. 講義・演習に関係した教員数は何人ですか。
 

a. 一人 <b>40%</b>	b. 二人 <b>1%</b>	c. 三人以上 <b>59%</b>
------------------	-----------------	--------------------
6. 講義・演習の進め方は適切でしたか。
 

a. 適切 <b>92%</b>	b. 不適 <b>1%</b>	c. その他 <b>7%</b>
------------------	-----------------	------------------
7. あなたは、どのぐらい出席しましたか。
 

a. >2/3 <b>100%</b>	b. 2/3～1/3の間 <b>0%</b>	c. <1/3 <b>0%</b>
---------------------	------------------------	-------------------
8. あなたにとって医学英語は、他の英語演習と違いがありましたか。
 

a. あった <b>88%</b>	b. なかった <b>7%</b>	c. その他 <b>4%</b>
-------------------	-------------------	------------------
9. あなたは医学英語で予習・復習をしましたか。
 

a. した <b>60%</b>	b. しなかった <b>30%</b>	c. その他 <b>10%</b>
------------------	---------------------	-------------------
10. 医学英語はあなたの学ぼうとする意欲に合っていましたか。
 

a. 合っていた <b>68%</b>	b. 合っていなかった <b>14%</b>	c. その他 <b>18%</b>
---------------------	------------------------	-------------------
11. 一年生で医学英語を演習することは有意義と思えますか。
 

a. はい <b>83%</b>	b. いいえ <b>10%</b>	c. その他 <b>7%</b>
------------------	-------------------	------------------
12. 一年生で行われている語学関係のクラスと比較して医学英語に対するあなたの興味（関心、要求度）は高いですか。
 

a. 高い <b>39%</b>	b. 中間 <b>59%</b>	c. 低い <b>2%</b>
------------------	------------------	-----------------

看護学科においては、社会における看護職の役割を理解し、国民・地域のニーズに応えた実践能力のある看護師の育成に向けての基盤ができ、その教育活動が着実に進められている。また、教職課程の開設初年度の学生は、63名中27名（約43%）が履修を完了し、学生たちのニーズに応えることができた（資料2-2-6）。

## 資料2-2-6 看護学科教職課程の履修状況

## 教職課程履修状況

	平成 16 年度		平成 17 年度		平成 18 年度	
	一般	編入	一般	編入	一般	編入
選択した学生	23	7	35	10	22	
履修した学生	20	7	20	10	18	

\* 編入学生は、一般入学の学生と同じ年度に履修する学生を示す。

(例)平成 16 年度欄の編入学生は平成 18 年度入学者

\* 「選択した学生」は、当初申し込んだ学生数を示す。

\* 「履修した学生」は、現在受講している学生数を示す。

## 分析項目Ⅲ 教育方法

## (1) 観点ごとの分析

## 観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

(観点に係る状況)

医学部においては、学生への早期医療体験として医学科、看護学科が共同で1年次の早期医学体験実習(資料3-1-1, 3-1-2 別添)と医学概論の講義を行っている。

## 資料3-1-1 早期医学体験実習の実施資料の抜粋

	実習施設名	所在地	施設の特徴等	引率教員名	学 生 氏 名			
1G	ふたば園	出雲市神西沖町2476-1 TEL 43-2461	知的障害者援護施設	三瓶准教授 山口助教 (看護学科)				
2G	ひまわり園	出雲市神西沖町2479-6 TEL 43-2633	特別養護老人ホーム	横田助教 (医学科) (神経形態学)				
3G	みどりの郷湖陵	湖陵町三部1231-1 TEL 43-3930	デイサービスセンター	片倉助教 (医学科) (環境生理学)				
4G	潮風苑	多伎町小田50-3 TEL 86-2030	特別養護老人ホーム	松本助教 (医学科) (発生生物学)				
5G	軽費老人ホーム あすなろ	出雲市白枝町396-2 TEL 22-4801	軽費老人ホーム	藤田教授 各務助教 (医学科) (公衆衛生学)				
6G	長浜和光園	出雲市西園町4015 TEL 28-0033	養護老人ホーム	安元助教 (医学科) (微生物学)				
7G	いなさ園	大社町軒築西1643-2 TEL 53-5727	特別養護老人ホーム	小倉講師 (看護学科)				
8G	ことぶき園	出雲市塩治有原1-50 TEL 23-1071	老人デイサービスセンター	福岡助教 (看護学科)				
9G	もくもく苑	出雲市矢野町845 TEL 21-6969	特別養護老人ホーム	鈴木助教 (看護学科)				
10G	小山園	出雲市小山町456-1 TEL 22-8659	特別養護老人ホーム	原准教授 小野田助教 (看護学科)				

医学科においては、1年生から6年生にわたって、各学年に体験型学習を組み込む工夫を行っている。1年次の早期医学体験実習、医学概論、医学英語、2年次では、外来エスコート実習を開始した(資料3-1-3)。3年生では、後期に、講座配属で(資料3-1-4)、臨床現場に接触する機会を与えた後、1月末から臨床医学チュートリアル教育と環境保健実習を開始している(資料3-1-5別添)。チュートリアル教育は自学自習を柱とする症例立脚型で、臨床現場に直面した臨場感をもたせた問題解決型学習を行っており、生涯にわたって知的向上を目指す能力を培うと共に、科学と情報技術の進歩に対応し、それを応用する能力を培うことを目指している。臨床実習開始前の共用試験において、その到達度を評価した後、臨床実習を開始している。臨床実習開始直前には、3週間の実習入門コースを行って、がん診療に関する基礎と漢方医学に関する集中講義を実施している(資料3-1-6別添)。臨床実習では、5年次には、全診療科において学生に電子カルテの参照権限及び記載の仮入力権限を与え、診療参加型実習を行った。6年次には、選択実習(9週)と県立中央病院(3週)に加えて、県内の地域医療病院において3週間の実習を開始し、地域医療の実態と重要性を学習させている。

### 資料3-1-3 外来エスコート実習の案内の抜粋

#### 外来エスコート実習

- 1.目的： 医学部生の early exposure の一環として、外来患者さんに付き添い患者さん、ご家族の訴えを聞き、患者背景にも配慮した意思疎通をこころがけ医療面接の導入とする。同時に臨床講義・臨床実習に備え、大学病院の部署の配置、患者さんの流れ、検査の順序等について理解する。加えて今後院内ボランティアとして活動する希望のある学生には、ボランティア活動の基礎となるよう配慮する。
- 2.対象： 医学部2年生の希望者。1回につき2名までとする
- 3.実習日： 原則第4金曜日を除く金曜日
- 4.時間： 上記金曜日の午前中。詳細な時間は下記参照
- 5.実習内容：
  - 1) 1回目：学生は擬似患者として実習担当医師とともに外来、各部署をまわり、患者さんの院内での流れ、院内部署の配置、検査の概要を理解することを主眼とする。
    - 8:45 病院正面玄関郵便局前集合、オリエンテーション
    - 9:00 病院総合受付から実習開始
    - 9:15 リハビリ部で車椅子等についての取り扱いの説明
    - 11:00 まとめ、後日感想提出
  - 2) 2回目以降：各診療科外来から患者さん、ご家族に問診、外来診察、検査に付き添う。
    - 8:45 病院正面玄関郵便局前集合 オリエンテーション
    - 9:00 実習開始
    - 11:00 まとめ、後日感想提出
- 6.評価： レポート提出により評価する

## 資料3-1-4 講座配属の資料の抜粋

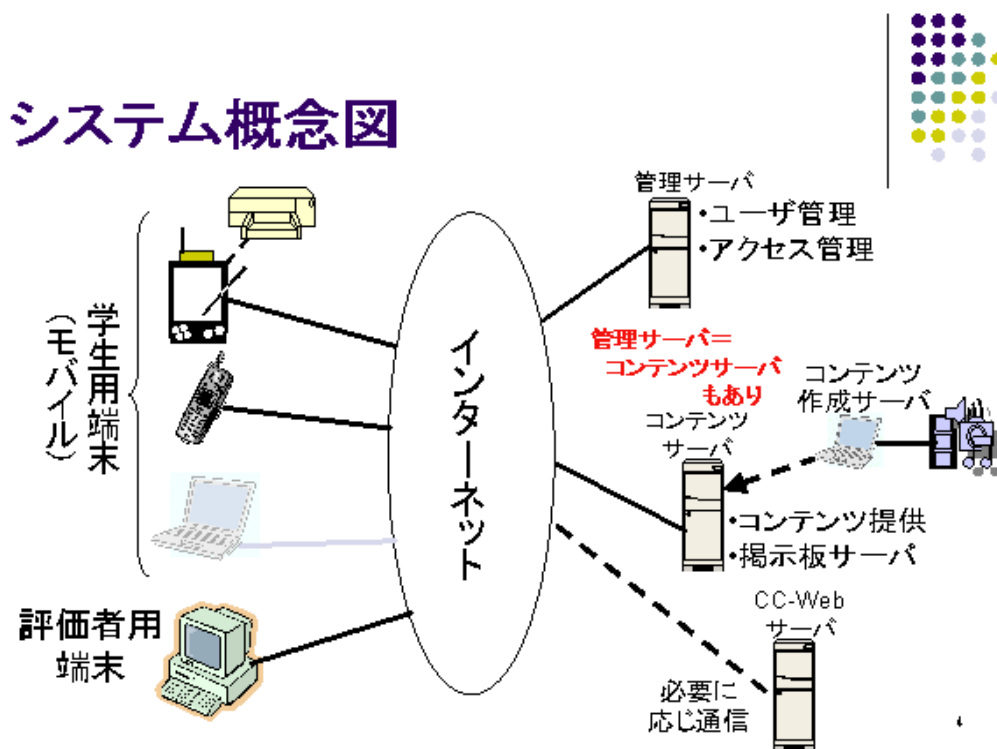
## 講座等配属先一覧

	前半	後半
学生番号	10月2日(月)~11月2日(木)	11月6日(月)~12月1日(金)
M041001	神経形態学	消化器・総合外科学
M041002	分子医学	放射線医学
M041003	神経形態学	放射線医学
M041004	精神医学	環境予防医学
M041005	泌尿器科学	臨床検査医学
M041006	法医学	呼吸器・腎臓内科
M041008	公衆衛生学	内科学第一
M041009	神経・筋肉生理学	精神医学
M041010	病態病理学	整形外科
M041011	整形外科	神経形態学
M041012	生物学	皮膚科学
M041013	薬理学	麻酔学
M041014	神経・筋肉生理学	消化器・総合外科学
M041015	産科婦人科学	医化学
M041016	環境生理学	麻酔学
M041017	皮膚科学	臨床検査医学
24018	器官病理学	放射線医学
M041018	器官病理学	循環器内科
M041019	小児科学	生物学
M041020	分子医学	内科学第二
M041021	神経形態学	内科学第二
M041022	神経・筋肉生理学	泌尿器科学
M041023	泌尿器科学	公衆衛生学
M041024	器官病理学	内科学第二
M041025	臨床検査医学	皮膚科学
M041026	環境生理学	精神医学
M041027	神経・筋肉生理学	精神医学
M041028	環境予防医学	産科婦人科学

看護学科においては、1年次には、教養教育科目と専門基礎科目を履修するとともに、看護学概論等の専門科目を開始している。2年次には、専門基礎科目と基礎看護学、臨床看護学及び地域看護学の領域からなる専門科目を、3・4年次には、臨地実習を中心とした専門教育科目を配置している。特に生きた現場で行う臨地実習は、それまで学んできた知識や技術を整理・体系化する上で重要な授業であり、小グループごとにひとりの教員が継続的に付き添い、個別指導ができる体制をとっている。

医学部においては、現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）で平成18年度～平成20年度事業として採択された「地域医療教育遠隔支援eラーニングの開発」により、離島や中山間地等のへき地を含む県内の地域医療病院や保健福祉施設と大学との間の双方向通信を活用した医学・看護学統合型eラーニングの教育モデルを構築することを目指している（資料3-1-7）。これにより、教員への質問、レポート提出、情報検索、教員から学生への連絡や課題の提示・指導等が随時どこからでも可能になり、地域医療教育を効率的かつ魅力的に行っている。

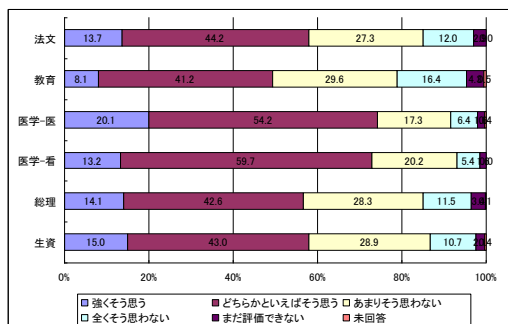
資料 3-1-7 地域医療支援 e-ラーニングシステム模式図



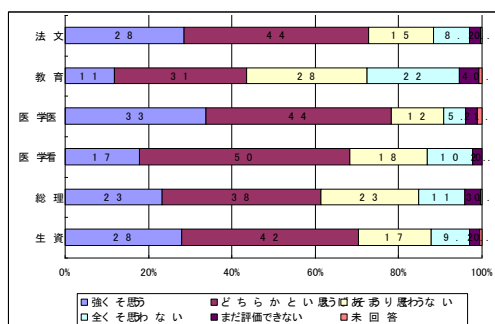
平成 18 年度の学生生活満足度調査調査では、「シラバスが整備されている」及び「シラバスを利用している」の回答として、医学科，看護学科ともに「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定的な回答は 70～80%であった（資料 3-1-8）。平成 18 年度に行った医学科及び看護学科の低学年次学生への早期体験実習へのアンケート結果から，1 年次学生の約 82%，2 年次学生の約 75%，3 年次学生の約 77%が実習は有意義であると回答した（資料 3-1-9，3-1-10）。

資料3-1-8 平成18年度学生生活満足度調査—シラバス関係の抜粋

29.シラバスが整備されている



30.シラバスを利用している





資料3-1-9 早期体験実習アンケート項目の抜粋

医学部医学科1、2、3年学生 各位殿

**島根大学医学部「早期体験実習」についてのアンケートについて (依頼)**

1年次前期に実施した「早期体験実習」についてのアンケートにご協力をお願いいたします。今後のカリキュラムの改革にも役立てますので、できるだけ意見もお寄せ下さい。

医学科長 柴藤 治

---

**I、「早期体験実習」についての以下の問いに対し、該当する項目を○で囲んでください。**

- この実習はあなたにとって意義のある(高い)ものでしたか。  
a、高い b、やや高い c、どちらとも言えない d、やや低い e、低い
- この実習は一年次医学部医学科学生にとって必要性の高いものだと思いますか。  
a、高い b、やや高い c、どちらとも言えない d、やや低い e、低い
- 実習ガイダンスは有用性の高いものでしたか。  
a、高い b、やや高い c、どちらとも言えない d、やや低い e、低い
- 総合病院ではなく、福祉関連施設を訪問することについての意義をどう思いますか。  
a、高い b、やや高い c、どちらとも言えない d、やや低い e、低い
- 早期体験実習の時期について、その妥当性をどう思いますか。  
a、高い b、やや高い c、どちらとも言えない d、やや低い e、低い
- グループ発表会の意義について、どう思いますか。  
a、高い b、やや高い c、どちらとも言えない d、やや低い e、低い
- 報告書の作成における負担について、大きかった(高い)ですか。  
a、高い b、やや高い c、どちらとも言えない d、やや低い e、低い
- 看護学科学生と実習することについて、その意義をどう思いますか。  
a、高い b、やや高い c、どちらとも言えない d、やや低い e、低い

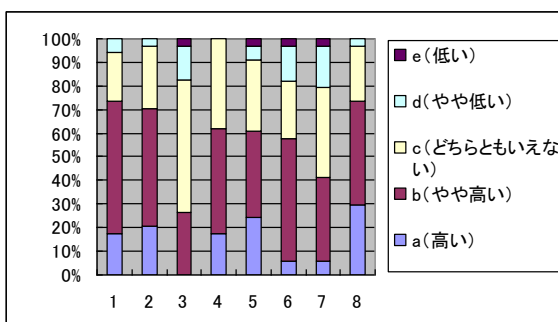
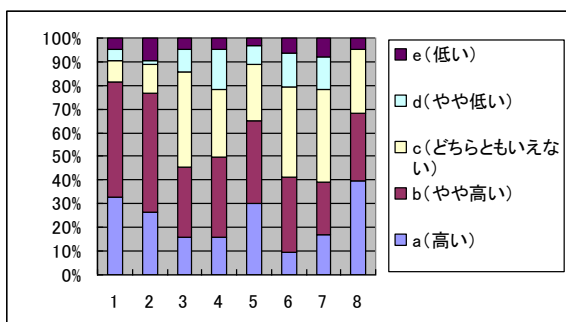
**II、その他、「早期体験実習」についての意見を自由にご記入下さい。**

資料3-1-10 早期体験実習アンケート調査の結果の抜粋

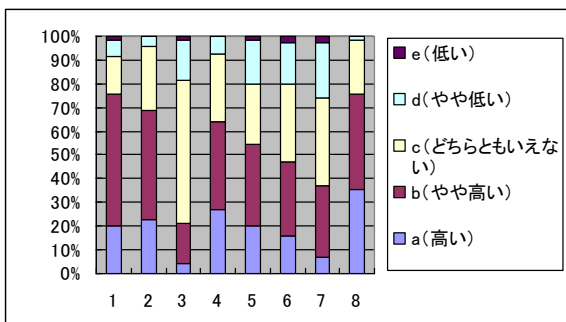
1 この実習はあなたにとって意義のあるものでしたか。

1年次学生

2年次学生



3年次学生



**観点 主体的な学習を促す取組**

(観点に係る状況)

臨床医学教育及び一部の基礎医学教育において、医学チュートリアル教育を実施することで、学生の主体的な学習能力の養成と向上を目指している。また、図書館の24時間開放、情報演習室の開放、C B Tや国家試験対策支援のための各講座における学習場所の提供等(資料3-2-1)、学生が主体的に学習できる環境を整えている。

資料3-2-1 国家試験支援体制資料の抜粋

国試のための指導教員一覧表

平成19年度				
講座	専門分野	指導教員	場 所	時 間 帯
解剖学(発生生物学)	解剖学(関連)	大谷 浩	カンファレンスルーム、教室	適宜
	"	橋本龍樹	"	"
解剖学(神経形態学)	神経解剖学、解剖学一般	安井孝彦	カンファレンスルーム、教室	17:00以降
	"	津森登志子	カンファレンスルーム	"
生理学(環境生理学)	植物生理学一般	紫藤 治	カンファレンスルーム	17:00以降
生理学(神経・筋肉生理学)	生理学(神経、筋肉、心臓、感覚器など)	廣田秋彦	カンファレンスルーム又はメール	随時(e-mail予約が原則。当日でも可能な時は応じます。)
	生理学(中枢)	伊藤真一	"	"
生化学(医化学)	生化学・情報伝達学(チャネル、受容体)	榎本浩一	原則としてメール	いつでも
	生化学	土屋美加子	"	"
生化学(分子医学)	生化学、栄養学及び臨床検査所見	寺嶋正治	カンファレンスルーム又は資料室	特になし
	"	三谷俊史	"	"
薬理学	薬理学・治療薬学	奥西秀樹	メールにて随時	"
	循環器薬理学	塩田直孝	"	"
病理学(病態病理学)	病理・遺伝	並河 徹	教室、メール	いつでも
	病理	原田祐治	教室、メール	"
病理学(器管病理学)	病理学	原田孝之	教室	随時
	"	中野晃伸	"	"
微生物学	微生物学	高岡治明	カンファレンスルーム	休日以外は何時でも
	"	清水利郎	"	"
免疫学	免疫学	原田 守	教室	適宜
	法医学、死生学(死体検案書)の書き方	竹下治男	カンファレンスルーム	17:00以降
法医学	法医学	高塚尚和	"	"
	法医学	高橋勇典	"	"
環境保健医学(公衆衛生学)	公衆衛生学	藤田自由	カンファレンスルーム	相談に応じる
	"	各務竹康	"	"
環境保健医学(環境予防医学)	保健医療論	塩野邦憲	カンファレンスルーム	E-mailで予約してください
	"	轟教直樹	"	いつでも
内科学(内一)	内分泌・代謝	杉本利嗣	教室	可能な限りいつ(内線2183に掛けてください)
	"	山口 徹	助教教室	"
	"	矢野彰三	医局	"
	"	栗岡聡一	"	"
	"	血液	田中順子	"
内科学(内二)	"	三宅隆明	"	"
	消化器内科	木下芳一	医局	事前夜間ですが、緊急になりましますのて、TELにTE
	"	尾立健二	"	"
	"	天野祐二	"	"
	"	石原俊治	"	"
内科学(内三)	"	佐藤秀一	"	"
	神経	山口修平	教室	17:00以降
	"	ト麻浩和	講師室	"
	膠原病	村川洋子	助教教室	"
	"	近藤正宏	医局	"
内科学(内四)	血液	高橋 勉	"	"
	呼吸器	樋部 威	助教教室	いつでも
	"	近藤圭一	医局	"
	腎臓	伊藤孝史	"	"
	循環器	島田俊夫	病内医局	在局ならいつでも249にTELくだ
内科(循環)	"	石橋 豊	"	"
	"	村上 隆	"	"
	"	公受伸之	"	"
	"	佐藤秀俊	"	"
	"	近藤圭一	医局	"
皮膚科学	皮膚科学	赤木竜也	教官室	17:00-19:00
	"	植田代三	"	"
	"	辻野佳雄	"	"
小児科学	小児科一般	山口清次	医局	火 20:30以降
	小児神経・先天異常	栗 聡子	"	"
	遺伝性疾患・神経	栗谷河川 有	"	"
	感染症・神経	瀬島 清	"	"
	感染・アレルギー	竹谷 健	"	"
血液、小児が	金井理恵	"	"	
循環器	安田謙二	"	"	

看護学科においては、教育課程は保健師助産師看護師学校養成所指定規則を踏まえなければならず、結果的に必修科目の単位数が多くなり、授業の編成が窮屈になっているが、臨地実習以外にも、看護研究の基礎、原書講読、卒業研究等で、小人数のグループ制指導或いは個別的指導による課題解決型の学習を多く取り入れ、自ら学び、主体的に問題解決に取り組む能力の育成に努めている。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を大きく上回る

(判断理由) 医学科では、教養教育から専門教育(基礎医学)への移行は、専門基礎科目を充実させることにより、スムーズに行われている。専門教育における講義、実習、医学チュートリアル教育、臨床実習はバランスよく配置されており、有効に機能していると判断する。事実、チュートリアル教育導入後の医師国家試験合格率は平均レベルで安定するようになってきている(資料4-1-1)。3年次編入学生のカリキュラムのため、一般入学学生の2年次後半及び3年次はカリキュラムが複雑に入り組んでいるが、適切に作成されたシラバスの活用により、授業は円滑に行われている。3年次編入学生のカリキュラムにおいては最初の8ヶ月が過密になる傾向に有り、若干の改善の余地がある。

看護学科では、卒業研究を含め(資料3-2-2)、ほぼ計画どおり進行している。3年次編入制度や教職課程の導入により、カリキュラムは過密かつ複雑になっており、若干の改善の余地はあるものの、学生は積極的に取り組んでいる。

このように、医学部では医学科と看護学科が協調して早期体験実習や地域医療実習の

充実を目指しており、教育GPにも採択されている2事業を含め、学生及び地域社会からのニーズに合致するよう幾多の観点からの教育方法の改革を行っており、その活動は高いレベルにあると判断した。

資料3-2-2 看護学科卒業研究の報告書の一例

### 番茶による陰部洗浄の尿路感染症予防に対する効果

山本真子

**【背景と研究目的】**  
尿路感染症は膀胱内感染症の中で最も多いとされ、そのほとんどが尿道からの上行性感染による。尿道内に存在する常在菌が原因菌として関与する<sup>1)2)</sup>。尿路感染症の危険因子としては、オムツの使用、長期にわたる陰部洗浄のケアの乱れが報告されている。またその予防については、オムツの交換時の無菌操作、清潔回路の維持、適切なケアの手順の選択が有効とされている<sup>3)4)</sup>。日常的な陰部洗浄としては、清潔綿糸となる外用薬口、カテーテル挿入時の陰部洗浄が行われているが、現状ではほぼすべてのケアが実施されているが、様々な種類に異なる方法で実施されている<sup>5)</sup>。

実習において、患者の陰部洗浄時に、番茶を使用している病棟があった。番茶に含まれるカテキンには抗菌作用があり、番茶の生葉を乾燥させた後、抽出液を白濁の消毒に用いる。抽出液の光量を測定する作用があるといわれている。また、カテキンには抗菌作用もあるため、腎臓の細菌感染の予防でも、オムツの交換に対して有効であるとの報告がある<sup>6)</sup>。糖尿病大腸菌の157および肺炎菌肺炎大腸菌について、番茶・緑茶などのカテキン含有飲料には増殖抑制作用があることが報告されている<sup>7)</sup>。しかし、複雑な尿路感染症の予防効果については、緑茶・番茶に対する効果を検査した報告はなかった。番茶が、これらの菌に対して増殖抑制作用を持つならば、番茶を使用した陰部洗浄というケアの有効性についての検証を強めることができると考えられる。

本研究では、番茶の、尿路感染症原因菌に対する増殖抑制作用を明らかにし、番茶を用いた外用薬口周囲のケアの有効性の検証について検討することを目的とした。

**【研究方法】**  
方法：日常使用する3倍濃度水(100mlに茶葉1g)の番茶・緑茶を、2倍濃度の液体培地に等量ずつ添加し、培養液を調製して、比較検討のため、2倍濃度の液体培地を調製して2倍に希釈し、対照培地とした。作成した培地を細菌(肺炎菌肺炎大腸菌:オートクレーブ121℃,20min,15分)種、緑茶・大腸菌・緑茶菌をそれぞれ接種し、室温において33℃で静置培

育した。菌は顕微鏡技術高倍鏡より入手した。培養開始2時間後から6時間後まで1時間ごとに吸光度(OD<sub>600</sub>)を測定し、培養開始時を基準とした吸光度の増加をもとに、増殖増減を定量化し、番茶や緑茶における増殖抑制作用を比較した。

統計学的分析・統計解析にはSPSS15.0 for Windowsを使用した。対照・番茶・緑茶の3群における平均値の比較と一元配置分散分析。群間の比較をBonferroniにて行い、統計学的有意水準を5%未満とした。

**【結果】**  
1. 吸光度からみた細菌の増殖曲線(図1)  
図1は、対照・番茶・緑茶の3群における吸光度(OD<sub>600</sub>)の増殖曲線を示している。対照群は最も早く増殖を開始し、6時間後にはOD<sub>600</sub>が約0.8に達した。番茶群は対照群に比べて増殖が抑制され、6時間後にはOD<sub>600</sub>が約0.4に達した。緑茶群は対照群に比べて増殖が抑制され、6時間後にはOD<sub>600</sub>が約0.3に達した。

2. 吸光度からみた大腸菌の増殖曲線(図2)  
図2は、対照・番茶・緑茶の3群における吸光度(OD<sub>600</sub>)の増殖曲線を示している。対照群は最も早く増殖を開始し、6時間後にはOD<sub>600</sub>が約0.8に達した。番茶群は対照群に比べて増殖が抑制され、6時間後にはOD<sub>600</sub>が約0.4に達した。緑茶群は対照群に比べて増殖が抑制され、6時間後にはOD<sub>600</sub>が約0.3に達した。

**【結論】**  
本研究の結果、番茶・緑茶には、使用したすべての菌に対して対照と比較した増殖抑制作用が認められた。番茶は、緑茶に比べて、対照と比較したその増殖を抑制し、その効果は6時間後まで認められると考えられる。大腸菌に対しては、3時間後までは対照と比較して増殖抑制作用が認められるものの、4時間以降の増殖抑制作用については、本研究の結果からは言及することはできない。緑茶に対しては、12時間後には、番茶による増殖抑制作用が認められる。緑茶は、いずれの菌においても、増殖抑制作用は番茶と比較して有意に強く、特に、肺炎菌及び緑茶菌における増殖抑制作用は顕著であるといえる。

本研究で、複雑な尿路感染症の原因菌である肺炎菌、大腸菌、緑茶菌について、日常使用する濃度の番茶に示した増殖抑制作用が認められたことから、番茶を使用した外用薬口周囲のケアは、尿路感染症の発症を遅らせることにつながる可能性があると考えられる。番茶はオムツ交換にも有効であるため、尿路感染症の発症を遅らせる可能性があることは、番茶を使った外用薬口周囲のケアの有効性の根拠をより強めるものといえる。しかし、本研究はあくまで実験室内での結果であるため、臨床にお

分析項目Ⅳ 学業の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点に係る状況)

医学科では、医師国家試験の合格率は、平成14年度まで国立大学43校中の40位程度を低迷していたが、チュートリアル教育を導入した学年の学生が卒業した平成15年度からは、ほぼ全国平均なみの合格率を維持するようになった。平成18年度卒業生にあつては、全国平均の合格率を大幅に上回る好成績を取めた(資料4-1-1)。

資料4-1-1 医師国家試験合格率の推移

年度	試験実施回数	総数			新卒			既卒		
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
14年度	97回	117	100	85.5%	103	91	88.3%	14	9	64.3%
15年度	98回	120	106	88.3%	103	97	94.2%	17	9	52.9%
16年度	99回	103	91	88.3%	89	83	93.3%	14	8	57.1%
17年度	100回	110	96	87.3%	99	87	87.9%	11	9	81.8%
18年度	101回	104	98	94.2%	90	85	94.4%	14	13	92.9%

看護学科では、平成14年度卒業生（第1期生）以後、保健師国家試験の合格率は、全国平均を上回っており、平成18年度卒業生にあつては100%であつた（資料4-1-2）。看護師国家試験については平成16年度卒業生以降100%の合格率である（資料4-1-3）。

#### 資料4-1-2 保健師の国家試験合格率の推移

年度	試験実施回数	総数			新卒			既卒		
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
14年度	89回	67	60	89.6%	67	60	89.6%			
15年度	90回	74	69	93.2%	69	66	95.7%	5	3	60.0%
16年度	91回	71	59	83.1%	68	57	83.8%	3	2	66.7%
17年度	92回	68	61	89.7%	64	59	92.2%	4	2	50.0%
18年度	93回	75	75	100%	71	71	100%	4	4	100%

#### 資料4-1-3 看護師の国家試験合格率の推移

年度	試験実施回数	総数			新卒			既卒		
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
14年度	92回	57	55	96.5%	57	55	96.5%			
15年度	93回	61	59	96.7%	59	57	96.6%	2	2	100%
16年度	94回	59	59	100%	58	58	100%	1	1	100%
17年度	95回	58	57	98.3%	57	57	100%	1	0	0%
18年度	96回	62	61	98.4%	61	61	100%	1	0	0%

#### 観点 学業の成果に関する学生の評価

（観点に係る状況）

医学科では、最高年次学生に特化したアンケートにおいて、「医学部医学科の教育目的や目標」について「それを達成する上で医学部医学科の教育は効果的であつたか」（9項目）への回答は「国際的に活躍できる能力を養う」の一項目を除き、効果的とする回答が平均67.5%と高かつた。医学科の専門科目における「達成すべき目標や身につけるべき力は明確であつたか」に対しては全ての科目において2/3以上が明確と回答した。その他、「学習の支援」に関してほぼ70%が肯定的意見であり、「6年間全体を総括して、卒業に当たって身につけた学力や能力について」に関しては未回答を除く約70%が満足している（資料4-2-1, 4-2-2）。

資料4-2-1 医学科6年次学生アンケート項目の抜粋

Ⅱ . 医学部医学科での教育全般

3 . 医学部医学全般の教育についてお伺い下し、どのような項目を達成する上で育はあなたにとってどの程度効果的だったと思いますか

(1) 社会人としての豊かな教養と高い倫理観を培うこと  
 4. 十分効果的である 3. 概ね効果的である 2. あまり効果的でない 1. 全く効果的でない

(2) 生命の尊厳及び患者の権利と人格尊重の重要性を理解すること  
 4. 十分効果的である 3. 概ね効果的である 2. あまり効果的でない 1. 全く効果的でない

(3) 信頼される善良な医療人としての総合的判断能力を育成すること  
 4. 十分効果的である 3. 概ね効果的である 2. あまり効果的でない 1. 全く効果的でない

(4) 各科目における教育の到達目標を明示し、自学自習を促し、より高い問題解決能力を育成すること  
 4. 十分効果的である 3. 概ね効果的である 2. あまり効果的でない 1. 全く効果的でない

(5) 医師としての基本的な知識と技術を身に付け、生涯にわたって知的向上を目指す能力を培うこと  
 4. 十分効果的である 3. 概ね効果的である 2. あまり効果的でない 1. 全く効果的でない

(6) 患者中心のチーム医療の本質を理解させ、その実行に必要なコミュニケーション能力を育成すること  
 4. 十分効果的である 3. 概ね効果的である 2. あまり効果的でない 1. 全く効果的でない

(7) 科学と情報技術の進歩に対応し、それを応用する能力を培う。  
 4. 十分効果的である 3. 概ね効果的である 2. あまり効果的でない 1. 全く効果的でない

(8) 将来の医療・教育の現場で指導しうる能力を培う。  
 4. 十分効果的である 3. 概ね効果的である 2. あまり効果的でない 1. 全く効果的でない

(9) 国際的に活躍できる能力を養う  
 4. 十分効果的である 3. 概ね効果的である 2. あまり効果的でない 1. 全く効果的でない

4. 医学部医学科の教育目的や教育目標について、どの程度知っていますか。  
 5. 非常によく知っていて、よく理解している 4. 概ね知っていて、だいたい理解している  
 3. 知っているが、十分に理解していない 2. あまり知らない 1. 全く知らない

Ⅳ. 学修の支援に関して

9. 大学での学修計画を立てるのにシラバスを活用しましたか。  
 4. 大いに活用した 3. 少し活用した 2. あまり活用しなかった 1. 全く活用しなかった

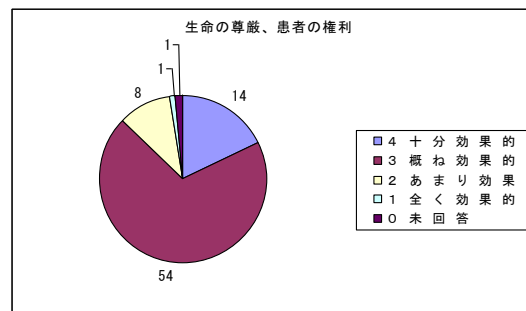
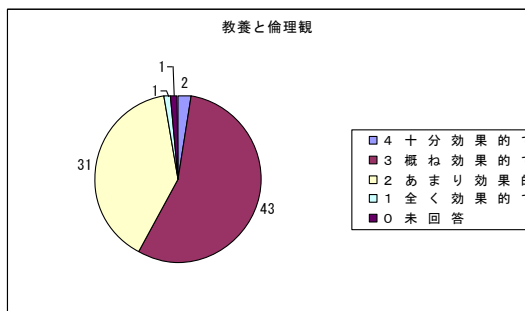
10. 図書館や研究室、実験器具の使用など、自分たちが自主的に学習を進めるための環境が十分整っていたと思いますか。  
 4. 強くそう思う 3. 少しそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

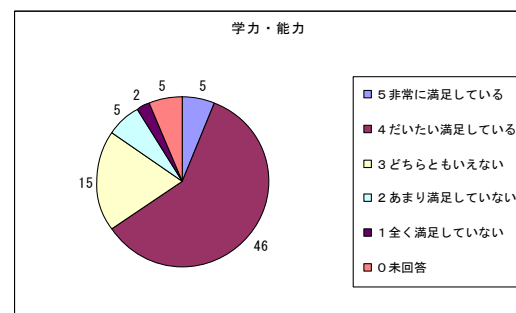
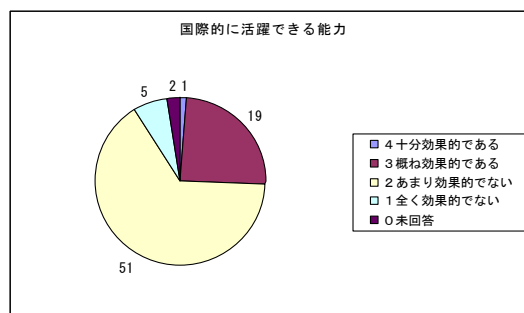
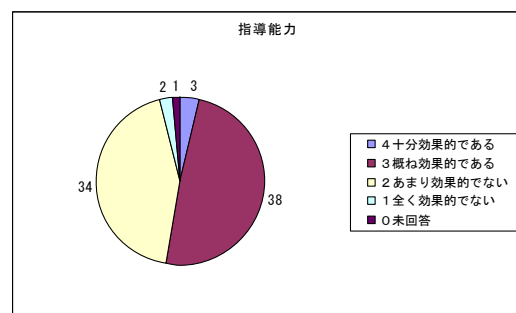
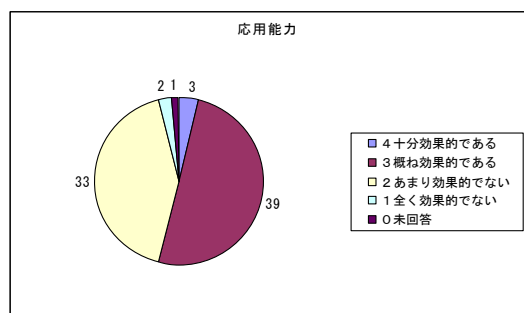
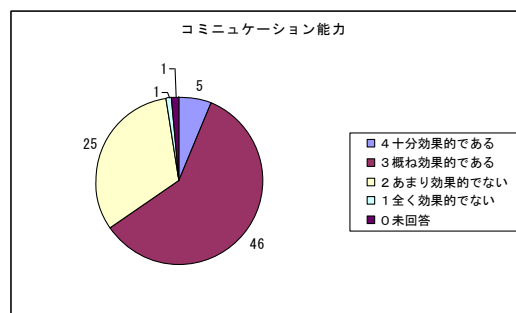
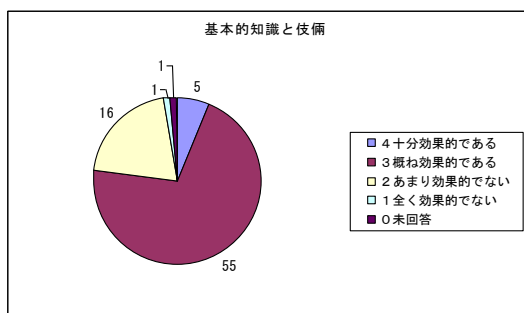
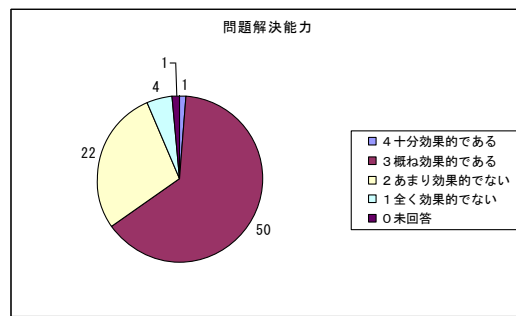
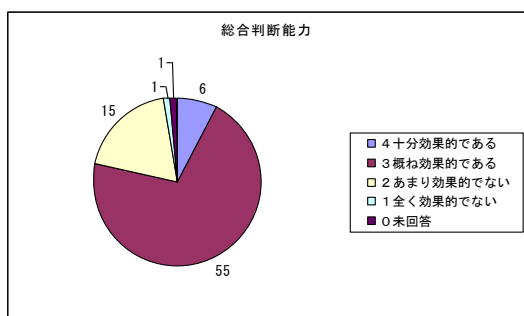
11. 学習指導や研究指導など、自分たちが自主的に学習を進めるために教員は十分な配慮をしていたと思いますか。  
 4. 強くそう思う 3. 少しそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

12. 医師国家試験の支援体制(学習室(研究室等)、教員の個別指導、ビデオ講座の支援、特別講義、模擬試験室利用など)を活用しましたか(予定も含む)。  
 4. 大いに活用した 3. 少し活用した 2. あまり活用しなかった 1. 全く活用しなかった

16. 卒業に当たって、島根大学での学修を通じて自分自身が身に付けた学力や能力について、どのように感じていますか。  
 5. 非常に満足している 4. だいたい満足している 3. どちらとも言えない  
 2. あまり満足していない 1. 全く満足していない

資料4-2-2 医学科6年次学生アンケート項目の結果の抜粋





看護学科では、最高年次学生に特化したアンケートにおいて、看護学科の教育目標（8項目）の達成度に対する回答では、「身に付いた」と「少し身に付いた」の肯定的な回答は、1項目（広く国際的視野に立ち、最新の科学と情報技術を活用する能力）を除いて全て74%以上であった（資料4-2-3、4-2-4）。また、4年間で身についた能力の満足度は約63%であった。

資料 4-2-3 看護学科 4 年次学生アンケート項目の抜粋

3. 看護学科の教育目的や教育目標について、どの程度知っていますか。

5. 非常によく知っていて、よく理解している    4. 概ね知っていて、だいたい理解している  
3. 知ってはいるが、十分に理解していない    2. あまり知らない    1. 全く知らない

4. 看護学科では教育目標を次の1)～8)までのように定めています。それぞれの項目についてお尋ねします。

(1)社会人としての豊かな教養と看護職としての高い倫理観を培う。

4. 身に付いた    3. 少し身に付いた    2. あまり身に付いていない    1. 全く身に付いていない

(2)看護対象者を深く理解し、対象者自身がより質の高い生活を送ることができるように支援する能力を育成する。

4. 身に付いた    3. 少し身に付いた    2. あまり身に付いていない    1. 全く身に付いていない

(3)潜在的・顕在的健康問題を理解し、主体的かつ総合的に解決する能力を育成する。

4. 身に付いた    3. 少し身に付いた    2. あまり身に付いていない    1. 全く身に付いていない

(4)看護の実践に求められるコミュニケーション能力を培う。

4. 身に付いた    3. 少し身に付いた    2. あまり身に付いていない    1. 全く身に付いていない

(5)専門的知識と技術を身に付け、生涯にわたって知的向上を目指す能力を育成する。

4. 身に付いた    3. 少し身に付いた    2. あまり身に付いていない    1. 全く身に付いていない

(6)少子・高齢社会に対応した地域看護活動が展開できる能力を育成する。

4. 身に付いた    3. 少し身に付いた    2. あまり身に付いていない    1. 全く身に付いていない

(7)保健・医療・福祉等関連領域への理解を深め、各分野の専門職者と協働できる能力を育成する。

4. 身に付いた    3. 少し身に付いた    2. あまり身に付いていない    1. 全く身に付いていない

(8)広く国際的視野に立ち、最新の科学と情報技術を活用する能力を養う。

4. 身に付いた    3. 少し身に付いた    2. あまり身に付いていない    1. 全く身に付いていない

Ⅲ. 学修の支援に関して

9. 大学での学修計画を立てるのにシラバスを活用しましたか。

4. 大いに活用した    3. 少し活用した    2. あまり活用しなかった    1. 全く活用しなかった

10. 図書館や研究室、実験器具の使用など、自分たちが自主的に学習を進めるための環境が十分整っていたと思いますか。

4. 強くそう思う    3. 少しそう思う    2. あまりそう思わない    1. 全くそう思わない

11. 学習指導や研究指導など、自分たちが自主的に学習を進めるために教員は十分な配慮をしていたと思いますか。

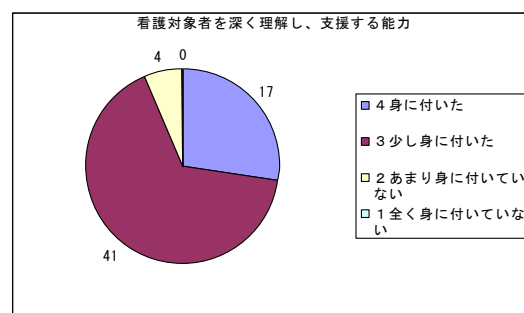
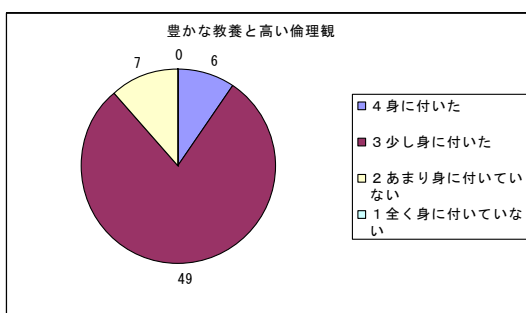
4. 強くそう思う    3. 少しそう思う    2. あまりそう思わない    1. 全くそう思わない

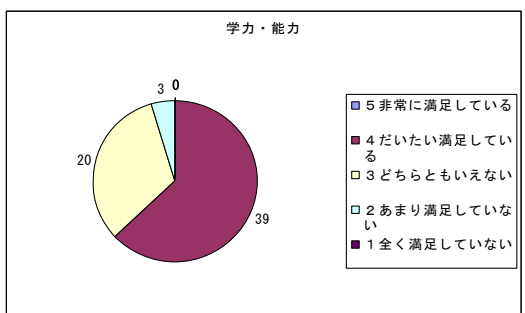
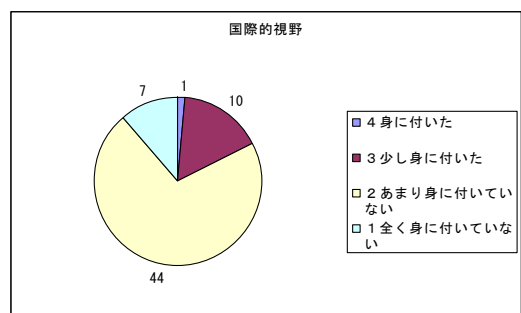
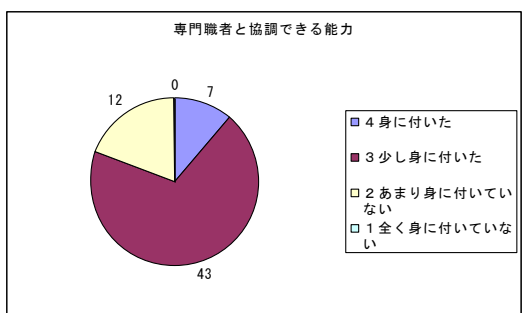
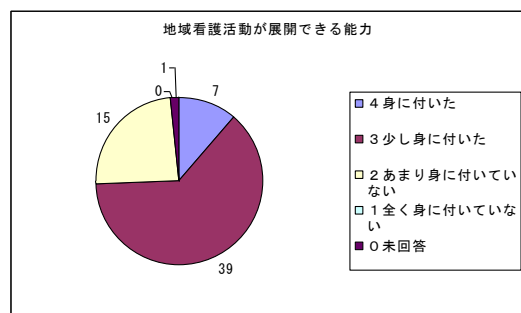
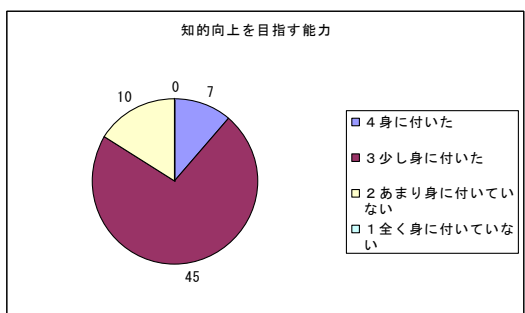
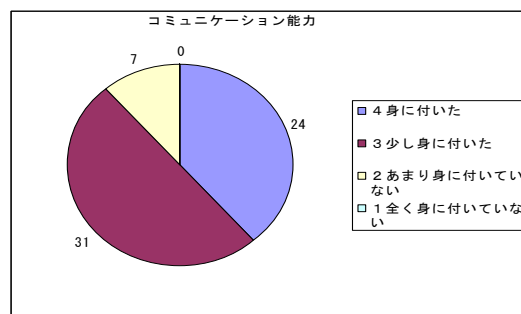
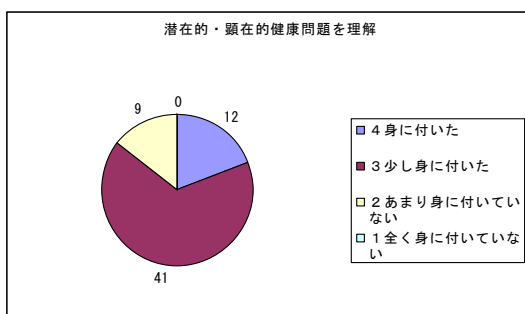
Ⅴ. 4年間全体を総括して

14. 卒業に当たって、島根大学での学修を通じて自分自身が身に付けた学力や能力について、どのように感じていますか。

5. 非常に満足している    4. だいたい満足している    3. どちらとも言えない  
2. あまり満足していない    1. 全く満足していない

資料4-2-4 看護学科 4 年次学生アンケート項目の結果の抜粋





(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 医学科では、全国的に行われる共用試験、特に CBT における得点はほぼ全国平均であること(資料 4-2-5)、医師国家試験の合格率は年度による変動はあるものの 19 年実施の試験は 94.2% で国公立大学 80 校中 11 位であったこと等から、学習成果は十分に上がっていると判断した。また、学習の達成度や身につけた学力や能力の満足度に関する学生へのアンケート結果からも、学習成果及び満足度は客観的にも期待される水準にあると判断した。ただし、国際的視野で医療・医科学研究活動を行う点については必ずしも満足度は高くなく、今後、海外研究者との交流をより活性化することが必要である。

看護学科における看護師国家試験、保健師国家試験の合格率についても、19 年はともに 100% であり、医学科同様に学習成果は十分に上がっていると判断した。



また、身に付けた学力や能力の満足度、及び学習の達成度についての自己評価等の調査結果から、学習の成果はあると判断した。

## 資料4-2-5 CBTの結果の概要

## CBT成績

## 本学

実施日	正答率(%)	標準偏差(SD)
2007/3/2	78.65	6.56
2006/3/3	70.98	8.96
	(以下、トライアル)	
2005/9/9	61.14	9.81
2004/7/16	57	23.42
2003/5/26	58	19.88

## 全国平均

実施年度	正答率(%)	標準偏差(SD)
2007年度	76.1	8.3
2006年度	71.7	9
	(以下、トライアル)	
最終	59.4	10.1
3回	57.2	9.8
2回	55.9	9.4

## 分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

## (1) 観点ごとの分析

## 観点 卒業(修了)後の進路の状況

(観点に係る状況)

医学科では、平成16年4月からの卒後臨床研修制度導入必修化に伴い本学附属病院での研修医は16年度が14.6%であったが、17年度が32.5%、18年度28.4%と増加している。また、本学附属病院と県内医療機関を合わせると17年度が43%、18年度35.8%の卒業生が県内で研修を行っている(資料5-1-1)。

看護学科では、卒業生のうち17年度46%、18年度42%が看護師として本学附属病院又は県内医療機関へ就職している。また、大学院修士課程等へ進学したものは18年度5名であって、徐々に増加している(資料5-1-2)。

## 資料5-1-1 医学科卒業学生(研修医)の動向

卒業年度	臨床研修先	県内出身	県外出身	合計	卒業生数	
16年度	県内	島根大学医学部附属病院	3	9	25	89 (不明4)
		島根県立中央病院	3	3		
		松江生協病院	3	1		
		松江赤十字病院		1		
		出雲市民病院		1		
		大田市立病院		1		
	県外		7	53	60	
	計	16	69	85		
17年度	県内	島根大学医学部附属病院	12	16	40	100 (不明8)
		島根県立中央病院		3		
		松江市立病院	1			
		松江生協病院		1		
		松江赤十字病院	1	3		
		出雲市民病院		1		
		大田市立病院		2		
	県外		2	50	52	
	計	16	76	92		

18年度	県内	島根大学医学部附属病院	10	13	29	90 (不明9)
		島根県立中央病院	4			
		松江生協病院		1		
		松江赤十字病院		1		
	県外		6	46	52	
		計	20	61	81	

資料5-1-2 看護学科卒業生の動向

卒業年度	進路先			県内出身	県外出身	合計	卒業生数
16年度	就職	県内	島根大学医学部附属病院	6	3	24	68 看護師 63 保健師 3 進学 2
			島根県立中央病院	5	1		
			国立病院機構松江病院	1			
			公立雲南病院	1			
			松江市立病院	3			
			松江生協病院	1			
			松江赤十字病院	1			
			飯南町役場	1			
			温泉津町役場	1			
	県外		7	35	42		
		計	27	39	66		
	進学			1	1	2	
17年度	就職	県内	島根大学医学部附属病院	9	7	27	65 看護師 57 保健師 2 進学 4 その他 2
			島根県立中央病院	3			
			国立病院機構松江病院	1			
			松江市立病院	3			
			松江赤十字病院	2			
			島根県	1			
			おおつかクリニック	1			
	県外		1	31	32		
		計	21	38	59		
	進学			1	3	4	
18年度	就職	県内	島根大学医学部附属病院	11	5	27	71 看護師 60 保健師 4 進学 5 その他 2
			斐川生協病院	1			
			松江市立病院	1			
			松江赤十字病院	7			
			島根県	2			
	県外		9	28	37		
		計	31	33	64		
	進学			2	3	5	

観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

医学部では、専門性を活かし社会・地域の多様なニーズに対応し、医師、看護師を養成することが大きな目標である。そのため進路の状況の評価の第1の項目としては、国家試験の合格率がどの程度達成できたかが客観的に重要であると考えている。また、島根県においては地域における医師・看護師不足が深刻であって、医学部としての地域医療への取り組みも重要である。進路の状況の評価の第2の項目として卒業生が医師、看護師としてどれ

だけ県内へ残り，医療機関へ就職することによって地域の医師・看護師不足を解消し，どのように地域医療に貢献したかが挙げられる。

第1の項目については，先述のように医師及び看護師の国家試験の合格率を高水準に維持しており，学部学生及び現在の社会のニーズに十分応えている。

第2の項目については，島根大学医学部附属病院をはじめ県内医療機関での臨床研修医を増加させるために地域医療開発室等で積極的に働きかけを行い，40%前後の卒業生を確保している。看護学科の卒業生は40%以上のものが看護師として県内医療機関へ就職しており，島根県内医療機関の看護師の充足に寄与している。

## (2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) 国家試験の合格率を高水準に維持していることと，地域医療人の育成及び確保についても地方大学としては高いレベルに維持されていることから，学部学生，地域住民・医療関係者の期待に十二分に応えていると考え，期待される水準を上回っていると判断した。

### Ⅲ 質の向上度の判断

医学部では複数の GP を獲得し、特に社会的ニーズに対応するように、教育の質の向上を目指した取り組みを行っている。以下、事例を提示す。

#### ①事例 1 「地域医療教育体制の構築」(分析項目 I・II・III)

(質の向上があったと判断する取組)

最も社会的ニーズの高い地域医療に従事する医療人の養成に向け、新たな地域医療教育体制の構築を目指した。主に、地域医療教育講座の設置(資料 1-1-1 別添)、地域医療病院実習の導入(資料 1-2-3)、地域病院と島根大学医学部を結ぶ情報伝達システムの構築(資料 3-1-7)、米国 WWAMI プログラムでの研修(資料 2-2-1)が挙げられる。これら活動は平成 17 年度～平成 19 年度事業の地域医療等、社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム「夢と使命感を持った地域医療人育成」及び平成 18 年度～平成 20 年度事業の現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代 GP)「地域医療教育遠隔支援 e-ラーニングの開発」等によりサポートされている。

当該改革は順調に進行しており、地域の医療関係者や学部学生からも高い評価を受けており(資料 1-2-4, 1-2-5, 1-2-6)、本学部教育の質の向上に寄与していると判断した。

#### ②事例 2 「腫瘍教育体制の構築」(分析項目 I・III)

社会的ニーズの高い腫瘍関連医療の充実に向け、新たな腫瘍生物学教育体制の構築を目指した。主に、微生物・免疫学講座の免疫学サブユニットに教授ポスト設置による腫瘍生物学の学習に必須な免疫学教育の強化(資料 1-1-1 別添)、がん化学療法教育学講座及びがん放射線治療教育学講座の設置(資料 1-1-1 別添)、臨床実習入門プログラムにおける腫瘍医学の集中講義(資料 3-1-6 別添)が挙げられる。また、平成 19 年度～平成 23 年度事業のがんプロフェッショナル養成プラン「銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム」の支援も得られ、学部と大学院とを有機的に繋げた教育により、腫瘍治療の専門家の育成を目指している。

これら腫瘍教育体制の整備・充実は、腫瘍専門医や看護師の養成に大きく寄与しており、教育の質の向上に貢献していると判断した。

#### ③事例 3 「入学者選抜試験の改革」(分析項目 II)

地域医療の向上と維持のためには、地域に残り医療活動を行う人材の確保が必須である。このため医学科では島根方式と言われる地域枠推薦入学制度を平成 18 年度から実施した(資料 2-2-1)。これは、島根県内の僻地出身者で、医師として活躍するに十分な素質と明確な目的意識を持ち、島根県の僻地医療に貢献したいという強い使命感を持った意欲ある学生を発掘し、選抜することを目的としたもので、独創的な制度として各方面から注目されている。さらに、医学科学士入学においても平成 19 年度より地域枠を設定した(資料 2-2-2)。入学者選抜試験における地域枠推の設定は、社会のニーズに合致し、本学の教育目的の達成に不可欠なため、間接的ではあるが教育の質の向上に貢献していると判断した。

#### ④事例 4 「国家試験合格率の高水準での維持」(分析項目 IV)

医学部の国家試験合格率は両学科とも高水準で維持されており(資料 4-1-1, 4-1-2, 4-1-3)、学生及び医師・看護師不足の解消を願う国民の期待に十分に応えている。この結果から、本学部における教育の質が高いレベルで維持されていると判断した。